

小学校 外国語活動・外国語（英語）

重点1 指導と評価の一体化を図る

- 「英語を使って何ができるようになるか」（単元を通して付けたい力）を明確にし、単元ゴールの児童の姿をイメージして1時間1時間の授業を組み立てている。
- 『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』を踏まえ、学習評価の考え方について理解している。
- 公開授業を伴う校内研修を通して、指導方法や単元計画、学習評価について、教師間で共通理解を図りながら指導と評価の一体化とその改善を図っている。

【ポイント】

単元ゴールにおける児童の姿をイメージし、「指導と評価の計画」に基づきながら授業を行い、指導したことを評価します。

重点2 目的意識や相手意識のある言語活動を繰り返し、コミュニケーション能力の育成を図る

- コミュニケーションを行う目的や場面、状況を明確に設定し、児童が互いの考えや気持ちを伝え合う言語活動を、単元を通して繰り返し行っている。
- 外国語活動では、外国語に慣れ親しむ活動として、チャンツや歌などの楽しみながらできる活動に加え、聞く・話す必然性のある活動を取り入れ、児童が自ら考え選択する場面を設定している。
- 外国語科では、会話の継続と既習事項の定着のために帯活動としてSmall Talkを計画的に行っている。

【ポイント】

児童が聞きたい、知りたい、伝えたいと感じる内容や場面を設定し、必然性のあるコミュニケーションが生まれる言語活動となるよう工夫することが大切です。

重点3 生涯にわたる様々な場面において、外国語でコミュニケーションを図ることができる力を身に付けるために小・中・高の学びを円滑に接続させる

- 学習指導要領における外国語活動及び外国語科の目標と内容について理解している。
- 「情報交換」「授業交流」「カリキュラム連携」の視点で中学校との連携を進めている。

【ポイント】

授業者は学習者のモデルとして、積極的に英語を用いて授業を進めるとともに、読んだり、書いたりする際には、音声で十分慣れ親しんだ外国語の語彙や基本的な表現を扱うこととし、児童の負担にならないように配慮することが大切です。

中学校 外国語（英語）

重点1 指導と評価の一体化を図る

- 「CAN-DO リスト形式による学年ごとの学習到達目標」をもとに、「英語を使って何ができるようになるか」（単元を通して付けたい力）を明確にし、単元ゴールの生徒の姿をイメージして1時間1時間の授業を組み立てている。
- 『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』を踏まえ、学習評価の考え方について理解している。
- 授業で行った言語活動と同程度の初出の英文等を用いたパフォーマンステストを実施し、指導と評価の一体化とその改善を図っている。

【ポイント】

単元ゴールにおける生徒の姿をイメージし、「指導と評価の計画」に基づきながら授業を行い、指導したことを評価します。

重点2 目的意識や相手意識のある言語活動を繰り返し、コミュニケーション能力の育成を図る

- コミュニケーションを行う目的や場面、状況を明確に設定し、生徒が互いの考えや気持ちを伝え合う言語活動を、単元を通して繰り返し行っている。
- 関心のある事柄から日常的な話題や社会的な話題まで取り上げながら言語活動を行っている。
- 言語活動を行う際は、言語材料について理解したり練習したりするための指導を必要に応じて行っている。
- 聞いたり読んだりした内容について、自分の考えや気持ち、意見や感想を話したり書いたりして伝え合う領域統合型の（複数の領域を統合した）言語活動を行っている。

【ポイント】

生徒が聞きたい、知りたい、伝えたいと感じる内容や場面を設定し、必然性のあるコミュニケーションが生まれる言語活動となるよう工夫することが大切です。

重点3 生涯にわたる様々な場面において、外国語でコミュニケーションを図ることができる力を身に付けるために小・中・高の学びを円滑に接続させる

- 小学校学習指導要領における外国語活動及び外国語科の目標と内容を理解している。
- 校区の小学校や地域の高等学校に対し、積極的に連携を働きかけ、「情報交換」「授業交流」「カリキュラム連携」を行っている。

【ポイント】

特に、小学校段階で学んだ簡単な語句や基本的な表現などの学習内容については、言語活動において具体的な課題等を設定するなどして、意味のある文脈の中でのコミュニケーションを通して繰り返し活用し定着を図ることができるように指導することが大切です。

高等学校 外国語（英語）

重点1 指導と評価の一体化を図る

- 「CAN-DO リスト形式による学年ごとの学習到達目標」をもとに、「英語を使って何ができるようになるか」（単元を通して付けたい力）を明確にし、単元ゴールの生徒の姿をイメージして1時間1時間の授業を組み立てている。
- 『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』を踏まえ、学習評価の考え方について理解している。
- 授業で行った言語活動と単元内容に関連付けた初出の英文等を用いたパフォーマンステストを実施し、指導と評価の一体化とその改善を図っている。

【ポイント】

単元ゴールにおける生徒の姿をイメージし、「指導と評価の計画」に基づきながら授業を行い、指導したことを評価します。

重点2 目的意識や相手意識のある言語活動を繰り返し、コミュニケーション能力の育成を図る

- コミュニケーションを行う目的や場面、状況を明確に設定し、生徒が互いの考えや気持ちを伝え合う言語活動を、単元を通して繰り返し行っている。
- 日常的な話題や社会的な話題を取り上げながら言語活動を行っている。
- 言語活動を行う際は、言語材料について理解したり練習したりするための指導を必要に応じて行っている。
- 聞いたり読んだりした内容について、自分の考えや気持ち、意見や感想を話したり書いたりして伝え合う領域統合型の（複数の領域を統合した）言語活動を行っている。

【ポイント】

生徒が聞きたい、知りたい、伝えたいと感じる内容や場面を設定し、必然性のあるコミュニケーションが生まれる言語活動となるよう工夫することが大切です。

重点3 生涯にわたる様々な場面において、外国語でコミュニケーションを図ることができる力を身に付けるために小・中・高の学びを円滑に接続させる


- 小学校学習指導要領における外国語活動及び外国語科の目標と内容や、中学校学習指導要領における外国語科の目標と内容を理解している。
- 同一地域内の小学校や中学校に対し、積極的に連携を働きかけ、「情報交換」「授業交流」「カリキュラム連携」を行っている。


【ポイント】

高等学校での学びを円滑に進めていくことができるように、中学校段階で学んだ語句や基本的な表現などの学習内容について、言語活動において具体的な課題等を設定するなどして、意味のある文脈の中でのコミュニケーションを通して、繰り返し活用して定着を図りながら、指導することが大切です。

小・中・高を通じて身に付けさせたい 資質・能力（目指す子どもの姿）
<ul style="list-style-type: none"> ◎ 外国語による実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる知識及び技能を身に付けている。 ◎ 外国語を聞いたり読んだりして情報や考えなどを的確に理解するとともに、理解した情報や考えなどをもとに適切な語彙や表現を用いて論理性に留意しながら表現したり伝え合ったりすることができる。 ◎ 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を身に付けている。

「言語活動」とは	小中連携のポイント
<p>文部科学省</p> <p>説明スライド </p>  	<p>文部科学省</p> <p>説明動画</p> 

ICT、学習者用デジタル教科書の活用について
<p>全ての小・中学校に英語のデジタル教科書が届けられています。児童生徒の興味・関心をより高め、指導の効率化や言語活動の更なる充実を図る外国語科における指導にとって大切な役目を果たします。活用する際には、「言語活動」を中心とした単元の中でどのように使うか」「児童生徒の変容につながっているか」など、資質・能力の育成につながるよう指導することが大切です。</p> <p>学習者用デジタル教科書について：文部科学省 (mext.go.jp)</p> 

<p>○下記のしまねの教育情報 Web サイト EIOS に学習指導案や文部科学省 YouTube 公式チャンネル等を掲載していますので参考にしてください。</p> <p>URL：http://eio-shimane.jp/class-making/junior-high-school/jr-Foreign/</p> 

研修等について
<ul style="list-style-type: none"> ○小学校外国語教育講座 <ul style="list-style-type: none"> 6月6日（木） 島根県教育センター 浜田教育センター ○中・高等学校英語科教育講座 <ul style="list-style-type: none"> 11月7日（木） 島根県教育センター ○外国語指導助手（ALT）の指導力等向上研修 <ul style="list-style-type: none"> 2月7日（金） 出雲合同庁舎